

第4期介護保険事業計画(骨子)へ ご意見・ご提言をお寄せください

現在、一関地区広域行政組合で策定作業を進めている第4期介護保険事業計画(平成21~23年度)について、住民意向調査や説明会を経て介護保険運営協議会でその骨子が下記のとおりとされました。

これに対する皆さんからのご意見・ご提言を広く募集します。

◇提出方法…任意の書式に▽ご意見・ご提言▽住所▽氏名▽年齢一を記入し、郵送、ファクス、電子メールで

◇提出期限…1月15日(日)

◎提出先・問い合わせ先…一関地区広域行政組合介護保険課

〒021-8501 一関市竹山町7番地2 ☎033223 FAX033224 電子メールkaigohoken@city.ichinoseki.iwate.jp

第4期介護保険事業計画の骨子について

◎基本理念

介護保険制度は、スタートして9年目を迎え、介護を社会全体で支える制度として住民から理解を得て定着が進んだところとす。

その一方で人口の減少傾向が続いており、75歳以上の後期高齢者は増加し続けています。介護予防重視の制度改正により、第3期介護保険事業計画期間(平成18~20年度)においては要介護認定者は横ばい傾向になっていますが、重度の要介護認定者は増加傾向となっています。

これらのことから、2015年(平成27年)をピークとする高齢化の中で、制度の安定的な運営を目指しつつ、「介護が必要になっても、尊厳を維持し、それぞれの状態に応じた日常生活を営むことができる」ことを目標として第4期介護保険事業計画(平成21~23年度)を策定するものです。

◎基本方針、長期目標、短期目標および具体的施策

基本方針および長期目標は、第3期計画を継承しつつ高齢者の包括的な支援を目指すものとします。

なお、平成26年度までの長期目標を実現するため、第4期計画実施期間の短期目標とそれを実現するための具体的施策を策定するものとします。

基本方針	長期目標	第4期計画の短期目標	第4期計画の具体的施策
包括的な介護予防支援と各種団体との連携	地域ケア体制の整備	医療、保健、福祉分野等の社会資源と連携し、一人暮らし高齢者等を支援する体制を構築します。	○地域包括支援センターの機能強化 ○医療機関、介護保険施設、居宅介護サービス、社会福祉協議会および民生児童委員等との連携
要介護状態移行への予防推進、要介護状態の軽減と悪化の防止	介護予防、健康づくりへの本格的な取り組み	高齢者のさまざまなニーズに対して必要な支援を効果的に提供する体制を構築します。	○特定高齢者を対象とする効果的な介護予防事業 ○一般高齢者の自主的な活動の支援と介護予防活動の継続 ○家族の身体的・精神的・経済的な負担の軽減 ○要支援認定者に対する効果的な介護予防支援 ○地域包括支援センターによる情報提供と技術的な支援
事業者の参入によるサービス選択性の確保	多様化したライフスタイルを支えるサービス資源の確保	介護の社会化を推進し高齢者の住み慣れた地域での生活を支えます。	○小規模多機能型居宅介護および認知症対応型共同生活介護の指定 ○地域密着型特定施設入居者生活介護の指定 ○地域密着型サービスの機能充実 ○短期入所生活介護の指定
サービス事業者間の連携の強化	サービスの円滑な提供	サービスが、円滑かつ効果的に提供される体制の構築を図ります。	○サービスの提供に関する新たな課題への対応 ○身体拘束および虐待の防止 ○介護相談活動の充実
事業者の積極的な情報公開	給付の適正化	サービスの透明性を高め、良質かつ適正なサービスの水準を確保します。	○地域密着型サービス事業所に対する指導・監査 ○サービスの自己評価、外部評価および公表 ○介護給付情報と医療給付情報の突合等

英語弁論

佐藤安那さんが全国へ



高円宮杯出場記念の盾を手にする佐藤安那さん

東山中3年の佐藤安那さんは、11月20日から東京で行われた高円宮杯第60回全日本中学校英語弁論大会に県代表として出場しました。9月に行われた県

中学校英語弁論大会弁論部門で2位に輝き、代表権を得たもの。5年前に中国から転校してきた佐藤さんは、苦勞して日本語を覚えたことや学校生活、中学で生徒会長を務めて学んだリーダーの姿などについて、5分の持ち時間で堂々と訴えました。佐藤さんは「全国大会という大きな舞台で、自分らしいスピーチができてうれしかった」と振り返っていました。



上 ワークライフ・バランスの大切さを呼びかけた蟹瀬誠一さん
左 いわて男女共同参画サポーターの会一関ブロックの皆さんが寸劇を披露



男女共同参画

「共働き」から「共育て」へ

市男女共同参画講演会は11月30日、一関文化センターで行われ、約320人が国際ジャーナリスト蟹瀬誠一さんの講演などで、男女共同参画社会実現に向けて学びを深めました。

彰を受けました。浅井市長は「講演会を契機に家庭や職場、地域などで男女共同参画社会実現に向けてご支援いただきたい」とあいさつ。続いていわて男女共同参画サポーターの会一関ブロックの7人が、「人生相談『父親』の時間ない夫」をテーマに寸劇を披露し、夫婦でワークライフ・バランスについて話し合い、家族と過ごす時間の大切さを呼びかけました。

「ワークライフ・バランスのススメ」『共働き』ではなく『共育て』の演題で講演した蟹瀬さんは、共働きで二人の子どもを育てた経験を紹介。保育園長に「共働きをやめて共育てを」と言われたことに触れ、保護者同士や近所の助け合いなど、多くの人の子育てにかかわること夫婦の負担が減ると提言。また、「子育てはおもしろい。自分も子どもに育てられた」とし、「日常生活の中で肩ひじを張らずに男女共同参画が実現するためにはワークライフ・バランスが鍵」と訴えました。



いわいの里ガイドの会の白沢会長(右から二人目)ら二人がステージ上でPRした審査会

ふるさとCM大賞

「骨寺村」テーマに参加

催)の審査会は11月23日、盛岡市で催されました。本市からは、一関市商工会議所青年部東山支部(鈴木寿和支部長)が参加し、高い技術と工夫があふれる作品で本市の魅力を大いに伝えました。市の「若者が主役の地域おこし事業」を活用して制作した今回は、「骨寺村」がテーマ。武将の娘がドクロからお経を習い、そのドクロを骨寺村にある慈恵塚に納めたという伝説を再現。そ

の後舞台を現代に移し、慈恵塚をいわいの里ガイドの会の白沢剛一会長が案内するという内容です。800年以上も守り続けてきた美しい農村風景を映し出すことで、ふるさと愛を表現しました。審査会の様子は12月27日午後4時から、岩手朝日テレビで放送されます。作品は参加賞として年間20回、同テレビで放送されます。